

村上秀造船株式会社



創業100年、培ってきた技術と信頼を胸に
多様なニーズに応えるオーダーメイド建造に対応

想定分野 基礎製造(浮体式) ▶ 浮体構造物
船舶 ▶ 洋上支援船建造・船舶修繕



今治と清水の2拠点体制で、幅広いタンカー建造に対応

1917年の創業以来、村上秀造船は一世紀以上にわたり多様な船舶を建造し、国内外の海上輸送を支えてきた。1960年代に木造船から鋼船へと転換して以降は、ケミカルタンカー、クリーンタンカー、油送船、LPG船、アスファルトタンカー、貨物船、コンテナ船など、液体・固体を問わず幅広い船種に対応できる技術基盤を培ってきた。主力船型のボリュームゾーンは全長105~120m級で、本社工場(今治市伯方町)には建造船台と修

繕ドライドックを備え、年間4~5隻の建造能力を持つ。加えて、グループ企業であるカナサシ重工(静岡県清水港所在)で年間約3隻を建造でき、両工場を合わせたグループ全体の生産能力は年間約8隻にのぼる。タンカー建造に強みを持ちながら、多様な液体貨物に応じた設計力や柔軟な対応力を備え、さらには修繕実績も多数。地域に根ざした造船企業として信頼を築いている。

採用実績・施工例

加圧式として世界最大級のLPGタンカーを建造



2022年11月竣工の「AMAURY NEYRAND」は、長さ150m、幅24m、5,000m³型LPGタンクを3基搭載した、加圧式世界最大級の15,000m³型LPGタンカー。SCR(Selective Catalytic Reduction)装置により国際排ガス規制(NOx Tier III)をクリア。大容量の積載と環境性能の両立を実現した。

グループ会社・カナサシ重工との2拠点体制



静岡県清水港に位置するカナサシ重工では、LPG運搬船、ケミカルタンカー、アスファルト船などの建造実績を持ち、海上輸送アクセスにも優れている。本社と連携し、建造・修繕を効率的に行う体制を整えている。

主要設備機械

- 【本社工場】船台:162.5m×25m 修繕ドライドック:125m×21m 全天候型ブロック工場 ジブクレーン:200t/1基、150t/1基、100t/1基、60t/1基、40t/1基、30t/1基
- 【カナサシ重工】船台:160m×24m、185m×30m 修繕ドライドック:122m×18.4m×8.3m ジブクレーン:200t/1基、80t/2基、45t/1基、10t/2基 PSPC対応ブラスト研掃工場、NCレーザー切断機、NCプラズマ切断機

会社情報

事業内容/船舶造船事業

所在地/〒794-2305 愛媛県今治市伯方町木浦甲4641-2

設立/1963年11月 資本金/4,500万円 従業員/400名(社内協力工含む)

代表者/代表取締役社長 村上 英治 TEL/0897-72-0070

事務所/今治

首都圏担当/本社営業部 TEL/0897-72-0070

E-mail/sales@murahide.co.jp

URL/https://www.murahide.com/about/